

# 八学大生販路開拓に一役

## 8base（東京） 圏域の物産PR

八戸学院大と地元の有志企業が連携して国内外の販路開拓を目指す新たな取り組みが3日、2日間の日程で、東京・内幸町の八戸都市圏交流プラザ「8base（エイトベース）」で始まった。各企業の商品開発などについて事前に学習してきた学生8人が店頭立ち、来店客の反応やアンケートを基にマーケティング戦略を探った。

（藤野真氏）

### マーケティング戦略探る

同大や八戸市などの企業で組織する「八戸圏域・地域グローバルイノベーション推進協議会」（略称はちぐろ、会長・堤静子同大教授）による事業。

実践的な職業体験を通じて学生に地元への愛着を持つってもらうことで、将来の圏域を担う人材を育てる狙いがある。販売戦略に役立つ企業側と互いにメリ

ットを享受できるのが大きな特長だ。

学生は昨年度から事前学習に取り組んできたが、新型コロナウイルス感染拡大によって実地の活動が延期されていた。

店舗の飲食スペースでは、参加企業の食材を取り入れた週末限定メニューを用意。学生は来店客にお薦めのポイントを説明したり、物販コーナーで圏域の認知度などを尋ねるアンケートを実施したりして、改善点を考察した。

堤教授のゼミで学ぶ4年の岡村智優さん（22）は「こうしたフィールドワークに学生の頃から参加できる機会は少ない。就職後も地域の活性化に関われたら」と意欲を示した。

堤教授は「一般的なインターンシップでは、学生がここまで主体的に関わるこ



来店客に八戸圏域の物産を紹介する八戸学院大の学生（手前右）3日、東京・内幸町

「ことを広げていきたい」と手応えを語った。